

2010年1月17日

- [ルート] 御茶水口⇄尾開山
 [参加者] CL M.KIKUCHI 他 16名
 [コースタイム] 青森 IC 駐車場 8:00→津軽 SA(トイレタイム)8:33→大鰐・弘前 IC8:45→
 御茶水標識 P9:00→尾開林道起点 10:00→お茶の水 10:35→(尾根歩き)
 東北自然遊歩道標識との合流地点 11:10→山頂 12:40~13:00→お茶の水 13:45
 →標識 P 14:10→道の駅サンフェスタ(14:35~14:55)→青森 IC 駐車場 15:30

[登山口までのアプローチ、登山口の様子] 大鰐・弘前インターで高速を降り、弘南電鉄「石川駅」の前を過ぎてさらに除雪されていない道を走り、りんご畑の中をしばらく行くと右側に標識が見える。積もった雪を踏み固めてここに3台の車を止め、あとの1台はその少し手前に駐車した。

[山行記録] 連日の大雪で、山行中止の連絡がはいるのではないかと心配したが、朝には雪は止んでいた。参加者17名、4台の車に分乗し青森 IC 駐車場を出発。津軽サービスエリアでトイレタイム。りんごの剪定作業をする人の邪魔になってはいけないと思っていたが、畑には私達のほかは誰もいなかった。身支度を整え、標識の矢印が示すお茶の水方向に、雪景邑のりんご畑の中を一行になって進む。間もなく林道起点に着く。積雪は膝下位、雪は時々チラチラと降る程度で寒くない。うっそ



うとした杉林の中を歩くこと 35 分、お茶の水に到着。「お茶の水」の名の由来は、明治天皇が東北巡幸の際、この水でお茶を召されたことからその名がついたそうだ。ここで喉を潤し5分程休憩した。その後道なりにカーブして右手にある階段を登った。しばらくは尾根を歩き続ける。雲の切れ間から青空が顔を覗かせている。雪の深いところは先頭を交代しながら進むので、じんわり汗ばんでくる。顔にかかる小枝を手で払いながら行くと、私達が進む方向を導いてくれるかのように動物の足跡がついていた。しばらく急斜面の連続である。足元の雪もしたいに深くなり、やっとの思いで頂上に着いた。東側に眼をやると



大鰐スキー場が望めた。記念撮影をし、立ったまま昼食をとり早々に下山する。道が崩れてしまうので、カンジキ隊を先頭にそのあとをスノーシュー隊が続くことにする。途中、ウリハダカエデの木があった。木肌は、なるほど子供の頃よく食べたマクワウリの模様にそっくりだ。赤松の木もあり、秋には松茸がはいるかも? 13:45 御茶の水で

再び喉を潤し持参したペットボトルにもありがたいお水を頂いた。ここから先は皆、足取りも軽く 14:10 には駐車場に着いた。太陽の光が眩しく、青空が広がっている。道の駅サンフェスタで買い物し帰路に着く。やはり青森より弘前のほうが気温が高いせいか、道路の雪もすっかり解けている。15:30 青森インターに無事到着。その後解散。山行を決行するか中止にするか難しい天気状況でしたが、今回リーダーの判断は大正解です! お陰様で楽しい山行となりました。自宅に戻り「お茶の水」を沸かして入れた緑茶の味もまた格別でした。

報告 M.OOKAWA

51 やすてやま 矢捨山 (564m) ・ 52 あそがだけ 阿蘇ヶ岳 (494m)

地域 中弘南黒地方
2008年11月16日

[ルート] 嘉瀬沢林道終点⇄山頂 三上碎石⇄山頂
[参加者名] CL Y.NARA 他 13名
[コースタイム] フェリー P7:00→アップルヒル7:30(トレ)→志賀防森林公園方面へ→
湯瀬沢林道起点 登山開始9:00→矢捨山山頂9:20～下山開始
9:30→終了9:40→車で移動10:10親水公園(トレ)10:30→
三上碎石10:45→11:05阿蘇ヶ岳山頂→11:30下山終了
渾神の清水東屋にて昼食(うどんのふるまいあり)後 解散

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]

【矢捨山】 林道終点4～5台駐車スペースあり 林道は思ったより荒れてない

【阿蘇ヶ岳】 親水公園あしげ先を左に入る その先右へ 三上碎石入口より入る チェーンあり注意

[山行記録]

【矢捨山】 身支度を整えて、皆で磁石を合わせる。しばらく使っていなかったので戸惑う。林道終点を左の斜面に入る。林の中はお約束のやぶこぎ(深くはない)たらの木がいたる所に生えている。うっかりさわって見なおす。急登が続く。すぐに杉林。にもかかわらず、わらびのほだがいっぱい。尾根らしい所に出ると少しだけ左側に進む。すすきとわらびのほだを踏みしめて行くと先の方で皆が立ちどまってる。近づいたら、もう三角点ありとのこと、あっという間の頂上でした。杉にはばまれて眺望はきかず。磁石にて次の目的地、阿蘇ヶ岳を確認する。記念撮影後、いっきに下山 10分ほどで終了

【阿蘇ヶ岳】 三上碎石の入口 チェーンがはずれていたのだから先に進む。管理棟らしき所で声をかけようと探すも誰もいない。そうこうしていたら関係者らしき人が2～3人出て来て、『何がの調査だが』と言ったとか 『・・・』口ごもっていたら『大学生だが』と言ったそうです。チェーンを張るといので車を移動、しばし待つ。かくして臺の立った大学生、調査？



に出発。林道終点に関係者立入禁止の看板あり。『土止めが下にあるのを壊さないよう、へりを歩くように』との指示あり。斜面を横ぎるよう進む。ガケになっているところにトラロープがはってある。ロープ沿いに左に進む。途中、ツルリンドウが花も実もつけているのを発見。皆で写真撮影、林に入る。入ってすぐ何かの花があとで誰かに聞こうとこれも撮影。遅れを取り戻そうと急いだら先の方で皆が待ってる。あわてて近寄

ったらもう頂上。頂上では植物講習会の真っ最中。赤い枝はミズキ。赤い実のなった葉脈に特徴があるのはサルトリイバラ(これは前から気になってこれだ判明)だそうです。記念撮影後ここも一気に下山。林道ぞいにツルウメモドキを発見、1枝ずつもらう。渾神の清水東屋にて昼食、地場産鶏肉とあぶりネギの入った太目のうどんとても美味しく満ち足りた気分。皆様に感謝、お疲れ様でした。

報告 M.KASAI